

相談支援専門員の実践で必要な相談援助技術について

- ① 援助関係の構築
- ② デマンドとニーズを考える
- ③ アセスメント
- ④ 意思決定の支援
- ⑤ ソーシャルワークの技法
(ケースワーク・グループワーク・コミュニティワーク)
- ⑥ ストレングス・エンパワメントの視点
- ⑦ 制度やサービスの体験的理解
(足を運んで得る情報・人脈の最大活用)²⁹

多職種連携とチーム支援

医療法人 白百合会

中村 淳

みなさんにお伝えしたいこと

- なぜ連携が必要なのかを知る
- 連携とはチームアプローチ。チームアプローチの留意点を知る
- “良い”連携をするためのポイントを理解する

連携とは？

連絡を密に取り合って、ひとつの
目的のために一緒に物事をする事

(大辞林 第3版より)

連携の定義

【定義】

「主体性を持った多様な専門職間にネットワークが存在し、相互作用性、資源交換性を期待して、専門職が共通の目標達成を目指して展開するプロセス」(松岡、2000)

連携の特徴：相互関係性 (①相互利益性 ②相互依存性 ③相互作用性)

【定義】

援助において、異なった分野、領域、職種に属する複数の援助者(専門職や非専門職的な援助者を含む)が、単独では達成できない、共有された目標を達するために、相互促進的な協力関係を通じて、行為や活動を展開するプロセス(山中、2003)

○ヘルスケア領域において多くみられる「連携」定義の共通項

「二人以上」の「異なった専門職」が「共通の目標達成」をするために行われるプロセス

令和元年度相談支援従事者研修より

(1) 連携が必要な理由 (重要性)

- 相談支援は基本的にマネジメントに徹すべき (直接支援が必要な場合もあるが)。直接サービスを提供するためには連携が不可欠。
- 事業所としての関わりが部分的で、生活の全体像が見えない場合。
- 複数のサービスを使い分けて生活している利用者の場合。
- 早急に対応が必要なニーズと、時間をかけて結果を出すニーズを混同している場合。
- 専門的なアセスメントが必要な場合 (医療・保健・教育など)
- その他

★相談支援専門員が新しい気づきを得て、より良い支援を提供するため

H28サービス管理責任者指導者研修資料より抜粋

(2) 連携 (チームアプローチ) の留意点

- 「連携」をすることが目的ではなく、連携をすることによりチームで支援していくことが重要
- 「専門性とチーム力」を高める
 - ・連携することによりグループを作るのではなく本人を支援するチームを作ることが必要
 - ・チームとはある特定の目的のために多様な人材が集まり協働を通じて相乗効果を生み出す少人数の集合体
- チームアプローチに必要な3つの条件
 - ①共通の目的や目標があること
 - ②ルールや決まりごとがあること
 - ③目的や目標を成し遂げられる人材が揃っていること
- 相談支援専門員は、上下関係のないチームアプローチのかじ取り役(大工の棟梁)

平成30年度相談支援従事者研修より

なぜ他職種連携に困難さを感じるのか？①

- ▶ 相手のことを知らない。知ろうとしていない？
- ▶ 相談支援専門員自身が
 - 自分のことを分かっていない
 - 伝えられていない
 - PRできていない
 - (仕事の内容、できること、得意分野)

H30年度主任相談支援専門員養成研修より抜粋

なぜ他職種連携に困難さを感じるのか？②

- ▶ 職種による違い
 - 歴史・文化・教育背景・アイデンティティ
 - 大切にしている倫理、価値観など・・・
 - 言語の違いや表現の違いもある・・・
- ▶ 法人による違い
 - 理念・目的・目標・実践・大切にすること
 - 人材育成ビジョンなど・・・

H30年度主任相談支援専門員養成研修より抜粋

(3) 良い連携をするために

～相談支援専門員のすべきこと～

- 相談支援専門員自体が自分の仕事について再確認すること→できること・できないこと
- 市町村の中で相談支援専門員が何をすべきなのかの共通理解を図ること→必ずすべきことを明確に（地域を基盤としたソーシャルワーク）
- 相談支援専門員の業務の見える化

H30年度主任相談支援専門員養成研修より抜粋

(3) 良い連携をするために

～お互いがすべきこと～

- お互いの違いについて知ろうとすること
違うからこそ一緒に考える、一緒に実践する意味がある
- 同じ言葉を使っている、職種によってニュアンスが違うことを意識する→ニュアンスの違いも話し合い理解する
- 場を共有し、顔の見える関係を作ることがスタート
- 役割があることが大切。その役割を積極的に担うこと

H30年度主任相談支援専門員養成研修より抜粋

チームアプローチの実践

- 相互の良いところを出し合い最善の支援を実施する。
- 抱え込みや過剰な支援がないかなど相互にチェックが行える体制をつくる。
- 相互の文化や価値観の違いを認めながらも、本人中心支援に向けたチームアプローチの必要性を理解する

平成30年度相談支援従事者研修より抜粋

連携（チームアプローチ）が上手くいくとき

- 的確なアセスメント
- モニタリング結果の共有
- 密な連絡
- 各専門性の尊重
- 目的の共有
- 明確な役割分担（でも柔軟な役割分担）



連携を図る上で大切なこと

- 上手くいかないこと（思い通りにいかないこと）も多い
- 答えはひとつではない
- どう捉え、考えるのか
- 抱え込まない

